

巻頭言

年頭挨拶

－創立百周年記念事業の意義－

理事長 大熊 幹章

平成18年の年頭に当たり、皆様に新春のご挨拶を申し上げます。

昨年のビッグイベントは何といても森林総合研究所創立百周年の一連の記念行事でありました。11月1日には虎ノ門パストラルにて国際日本文化研究センター安田喜憲先生による記念講演と記念式典を、翌11月2日にはつくば国際会議場にて祝賀会を挙行し、皆様のご尽力のお陰をもちまして成功裡に終了することができました。これに先立ち、10月19日にはイイノホールにて創立百周年記念シンポジウム「未来に求められる森の恵み 夢研究への提言」を開催し、こちらも無事終わることができました。特に所員お二人の若々しい発表は大好評でした。その他、記念出版として「森林総合研究所百年のあゆみ」他2冊を刊行し関係各位に配布いたしました。



さて、記念式典の中で、森林総研の存立の意義、果たすべき使命として「ミッション」を公表いたしました。我が国最大の森林・林業・木材産業に関わる研究機関である当研究所が、独立行政法人として国民の要請に応えるという責務は大きなものがあります。第1期中期計画の成果を総括し、次期中期計画につなげるというこのとき、研究所100年の歴史を踏まえ、未来への飛翔を祈念してミッションを策定して世の中に宣言いたしました。「ミッション」は次のようなものです。

「森林総合研究所は、森林・林業・木材産業に関わる研究を通じて、豊かで多様な森林の恵みを生かした循環型社会の形成に努め、人類の持続的発展に寄与します。」

ご承知のように、20世紀の工業化文明を支えてきた化石資源、金属資源の枯渇が進むとともに地球環境の劣化が加速度的に進行し、人類の未来に警鐘が鳴らされています。このような状況のもとで我々の文明を未来にわたって維持、発展させて行くためには、豊かで多様な森林の恵みを生かした環境保全型の循環社会を創出するほかありません。すなわち、森林・林業・木材による循環型社会の実現こそ人類の持続的発展を可能にする道であります。

このように考えてミッションを設定いたしました。今後、このミッションを旗印に職員一同、国民の皆様に奉仕する独立行政法人として業務に専念することを宣言したのです。

創立から100年の歴史が森林総研の上に流れたこととなります。この100年の歩みは、まさに今回森林総合研究所創立百周年記念行事協力会によって建立された記念碑「山なみ越えて」の歩みでありましたが、それはそのまま日本における森林・林業・木材産業に関わる科学と技術の発展の歴史であったことは明らかです。

新しい年を迎え、本年は次の100年に向けてのスタートの年でもあります。所員の皆様の頑張りに期待するとともに、関係各位のご支援、ご協力を切にお願いし、新春の挨拶いたします。